

2 PTAの主な活動

PTAは、学校および家庭教育に関して理解を深め、子どもの生活習慣や環境の改善、充実、会員相互の学習などの活動を行います。その内容により、学習活動・社会活動・広報活動に分けられます。それぞれについて、具体の活動例を紹介します。

(1)学習活動

PTAは「保護者と教員が力を合わせて、子どもたちの健やかな成長を図る」ことを目的としています。そのために、「学ぶPTA」と「活動するPTA」の二つの面から、活動例を紹介します。

A. 学ぶPTAの内容 (活動例)

(1)家庭教育を進めるための学習

- ◆家庭教育と親のあり方(スマホなどのルールづくり、生活リズムの定着)
- ◆「語り合いを通した親育ち」の活動
- ◆子どもの将来の職業と進路

(2)学校教育の理解を深めるための活動

- ◆学校の教育方針、目標の理解

(3)現代的な課題についての学習

- ◆人権教育
- ◆男女共同参画社会づくり
- ◆国際理解
- ◆環境教育
- ◆情報教育
- ◆いじめ問題
- ◆SNSに関すること

(4)地域理解を深めるための活動

- ◆地域の歴史と伝統行事
- ◆地域の社会教育施設や文化財

B. 活動するPTAの内容 (活動例)

(1)学校行事等、学校教育活動への参加・協働

- ◆学習参観、学校説明会への参加
- ◆学級・学年・地区別PTAの開催
- ◆学校支援・地域とともにある学校への参画
- ◆学習活動を支援するボランティア活動の推進

(2)PTA主催行事

- ◆各種講演会や研修会の開催、ふれあい祭りの開催
- ◆読書活動推進のための親子の取組
- ◆スポーツ、サークル活動の推進

(3)地域の団体・機関等との連携・協力

- ◆地域の大人の参加による夏休み中の「ふれあいラジオ体操」の開催
- ◆通学合宿等、地域における子どもの体験活動への協力

(4)「早寝・早起き・朝ごはん」運動に関する取組

- ◆「ノーテレビデー」「ノーゲームデー」などの取組
- ◆「朝食レシピ」の募集など、食育に関する取組

(2)社会活動

地域の教育環境の改善や校外における児童生徒の生活の安全を確保するため、青少年に有害な情報への対策、遊び場の確保など外部環境への気配り、地域住民同士の豊かな人間関係づくり等、地域の各種団体・機関等と連携した取組を進めていきます。

その具体の活動例を紹介します。

A. 教育環境整備の活動（活動例）

- ・通学路の整備、遊び場の確保、安全パトロール、声かけ運動の実施
- ・ゲーム機、パソコン、スマートフォンなどの情報環境への対応（フィルタリングサービスの利用促進）
- ・学校の環境美化活動など

B. 環境改善のための活動（活動例）

- ・有害チラシや看板類の排除、有害図書撤去運動など
- ・危険箇所や交通量の調査とその対策など

(3)広報活動

広報紙の発行やホームページの開設は、PTA行事や会合の内容、学校の様子などを知らせることがその中心となります。広くPTA活動を知ってもらうという点では、大変有効な取組です。広報活動を行う際に配慮すべきことを紹介します。

A. 会員の関心が深い記事を取り上げる

- ・魅力ある広報紙を作るには、会員が知りたい、聞きたいことなど、興味をひく話題を選ぶことが大切です。
- ・また、特集テーマとしては、発行時期に合わせて、PTA総会などの行事や会員の関心が高い生活指導や学習指導上の課題、子どもの暮らしぶりなどが考えられます。

B. 親しみやすく構成を工夫した紙面づくり

- ・わかりやすい言葉を用いて記事を作ることが大切です。見出しや紙面構成を工夫し、親しみやすい広報紙を作りましょう。

(4)学習活動を豊かにするために

～参加型の学習（ワークショップ）を取り入れてみませんか～

参加型学習（ワークショップ）の特徴

- ・参加者の経験や行動、発見を軸に転換します。
- ・小グループ（1 グループ 5 名前後）で、意見交換によって課題を多角的に検討する共同作業や、体験活動によって進めます。
- ・参加者が考え、意見を出し合ったり、共同作業をしたりすることをおして気づき、また、振り返ることによって効果を高めることができます。



約束／学習を始める前に全員参加で確認しましょう。

- ①**参加**…活動に積極的に参加しましょう！
- ②**尊重**…お互いの考えや感じ方を尊重しましょう！
- ③**守秘**…話し合い活動で知った参加者の個人情報を持ち帰りません。



展開例（60 分間）

展 開	活 動 内 容	ポ イ ン ト
はじめに  (15 分間)	○趣旨説明 アイスブレイキング グループ分け	・ファシリテーターによりテーマ、目的の確認をする。 ・参加者の緊張をほぐし、場の雰囲気を和やかにする。 ・グループ（5 人程度が理想）を作る。グループ内に進行役等の役割分担もできるとよい。
学び  (30 分間)	○グループ活動 ① 気づく活動 ② 深める活動 ③ 行動に繋がる活動	・テーマに基づき、自分の考えを出す。（付箋等活用） ・他の人の意見を聞く中で、さらに考えを深め、知識を増やす。（模造紙等活用） ・今まで取り組んできたこと、これから取り組めそうなことを語り合う。
広がり  (10 分間)	○全体交流 各グループの発表	・グループで出た意見を全体で交流し、できるだけ多くの考えに接する。
まとめ  (5 分間)	○ふりかえり	・参加者の意見や気づきを聞き、学習の整理、共有の場とする。 ・グループで互いにお礼を言って、活動を終える。

※ファシリテーターは、グループの話し合いの様子を観察し、グループの話し合いが活発になるよう適宜働きかける。

※必要に応じて会場内の感染症対策を行う。

アイスブレイキング例

後出し じゃんけん 	① 全員がファシリテーターの合図で、ファシリテーターを相手にじゃんけんします。 ② ファシリテーターは「じゃんけんはい、はい」と声をかけます。最初の「はい」でファシリテーターが先に手を出し、二回目の「はい」で参加者が後出します。 ③ 後出しじゃんけんを「あいこバージョン」→「勝つバージョン」→「負けるバージョン」でやっていきましょう。失敗しても、テンポよく進めるのがコツです。 【振り返り】 やってみて、どのバージョンが簡単か、難しかったか聞いてみます。ジャンケンはいふだん勝つことを意識しているので、逆は難しく感じます。脳が固定観念にとらわれているからです。「頭が柔らかくなりましたか？」等、声かけをしてみましょう。うまくできた回数を数えてもらい、数の多い人から自己紹介してもらうことにつなげることもできます。
バースデー チェーン 	① ジェスチャーだけで誕生日日順になるように並んでもらいます。 ② 並び方の確認をします(誕生日日の早い順(1月→12月)や時計回り等)。話してはいけないこと強調して伝えます。 ③ 並び終わって、少しでも自信のない人には、挙手してもらいます。 ④ 自信のない人が無くなるまで、無言で並びなおしてもらいます。 ⑤ ファシリテーターが、一人ひとり誕生日を確認していきます。 ⑥ 間違えずに並び終えた場合には、みんなで拍手をしましょう。 【振り返り】 「自信がない」と手を挙げた人を中心に、何人かに感想を聞きます。「ジェスチャーだけでコミュニケーションを図ることはどうでしたか？」等、聞いてみるのも良いでしょう。応用編として、名前のアイウエオ順や起床時間順等もできます。
我が家の「これ、当たり前」 (事前準備必要) 	① 事前にリストを準備しておき、配付します(参加者数+予備)。 ＜リスト(参考)＞ ・目玉焼きにかけるのは…しょうゆ派 OR ソース派 OR 塩派 ・子どもの部屋の掃除は…子ども派 OR 親(おとな)派 ・夜のテレビのチャンネル権は…子ども派 OR 親(おとな)派 ② 近くの参加者でグループを作り、共有しましょう。違う回答の人がいたら、お互いにその理由を尋ねましょう。 【振り返り】 全体で1～2名程度に感想を発表してもらいます。発表後は拍手をしましょう。「違っていい。違うことがおもしろい。」を共有しましょう。リストでは、人に知られたくない生活スタイルや価値観等が含まれない項目となるよう配慮しましょう。

アイスブレイキングは、他にもあります。
社会教育における人権学習の手引き「波紋」にも掲載しています。
ぜひ活用ください。



「波紋」
二次元コード

用語の解説

ファシリテーター

学習活動の進行を促進し、活発にする役割を担っています。学習者間の交流をうまく導き、学習者や集団の変容や協働を促します。

アイスブレイキング

ワークショップには欠かせない活動です。参加者のより積極的な参加を促すために場の雰囲気や緊張感を和らげ、緊張感を解きほぐすことがねらいです。

